

4 ダイズ病害虫の発生動向

はじめに

ダイズの病害虫の種類は数多いが、主要な病害虫は茎疫病、黒根腐病、紫斑病、モザイク病、フタスジヒメハムシ、カメムシ類、ハスモンヨトウ等であり、2004年のデータを基にこれらの発生動向について紹介する。

茎疫病

黒ダイズの主要産地である丹波地域を中心に1970年代から発生しており、最近、多発傾向にある立枯性病害である。減反によりダイズの作付け間隔が短くなり、土壤中の病原菌密度が上昇している。篠山市内の黒ダイズでは、土壌からの茎疫病菌検出圃場率は86%と広範囲の圃場で汚染されている。2004年は台風による圃場の冠水、側枝の裂けや主茎の折れが多く、篠山市の発生圃場率は50%と多発した。本病は排水不良圃場で発生しやすく、特に集中豪雨等で圃場が冠水すると激発することが多い。防除の基本は第一に排水対策である。

黒根腐病

本病も被害の大きい土壌伝染性の立枯性病害である。茎疫病と同様、丹波地方の黒ダイズ産地で1970年代から発生しており、最近多発傾向にある。2004年は台風により降水量が多く、排水不良圃場で多発した。茎疫病同様、排水不良条件で発生しやすく、9月以降に病徴が目立ってくるが、病原菌は6、7月の生育初期に感染しており、この梅雨時期の多雨により発病が助長される。高畝など排水対策や石灰施用、水稲との輪作等の耕種的対策が必要である。

紫斑病

2004年の県内ダイズの発生圃場率は27.3%、平均被害粒率は0.2%とやや少ない発生であった。本病には基幹防除が行われているため、大発生することはないが、収穫前の多雨、収穫時期の遅れ、子実乾燥の不備などにより発生が目立つことがあるので、注意を要する病害である。

モザイク病

発生圃場率は25.0%で、但馬、丹波地域で発生が目立った。褐斑症状粒の発生圃場率は72.8%であった。今後作付けが増加するサチユタカはウイルスによる褐斑粒が発生しやすいので、アブラムシの防除が重要である。

フタスジヒメハムシ

発生圃場率は45%、10株当たり虫数は1.1頭と並み程度の発生であるが、最近増加傾向にある。

カメムシ類

9月の発生圃場率は10%、10株当たり虫数は0.1頭とやや少ない発生であった。しかし、子実調査によると発生圃場率は100%、被害粒率は15.8%とやや高く、2002年もやや多発しており、最近増加傾向にある。

ハスモンヨトウ

被害発生圃場率は30%、1 a 当たり白変カ所数は0.4とやや少ない発生であった。篠山市でのフェロモントラップによると8月中旬から9月中旬に多発したが、防除と台風の強風で密度が抑制された。

今後の方針

立枯性病害については病害虫防除部で薬剤、耕種、生物的防除の体系防除システムを検討する。

前川和正（農業技セ・病害虫防除部）

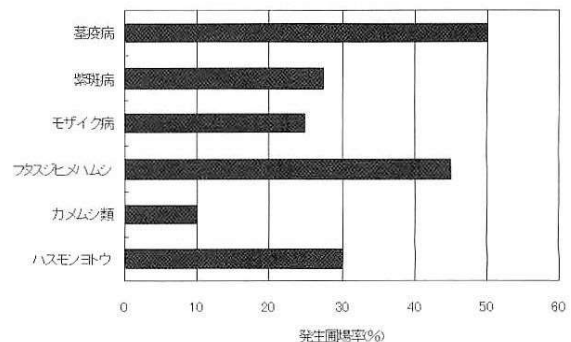


図 主要病害虫の発生（2004年）
茎疫病は篠山市内での値